

希望の炎は時代を超えて

～6/28 オリンピックの聖火リレーが大山で行われます～

東京2020オリンピックが7月23日(金)～8月8日(日)に開催されるのに先立ち、全国各地で聖火リレーが行われています。東日本大震災から10年目となる節目の年に行われる聖火リレーとして「Hope Lights Our Way/希望の道を、つなごう。」をコンセプトに、3月25日に福島県のナショナルトレーニングセンターJヴィレッジをスタート。7月23日(金)までの121日間で行われる予定で復興の歩みを進める被災地をはじめ全国各地を巡り、人々に勇気を与えています。

本市では、6月28日(月)に大山で実施される予定で、全国でも珍しいケーブルカーを使ったリレーを行うため、県内における見どころの一つになっています。

トーチにともる希望の炎が本市にやってくる、この歴史的イベントとランナーの皆さんを紹介しします。
☎スポーツ課 94-4628



市役所ロビーに展示された聖火トーチ (4月20日・21日)

県内のスタートは芦ノ湖、ゴールは赤レンガ倉庫

神奈川県を通過するのは開会式の約1カ月前となる6月28日(月)～30日(水)の3日間。山梨県から聖火を受け取り、県内の主要なスポットを通り、千葉県へ引き継ぎます。

初日は箱根駅伝の往路ゴール地点である芦ノ湖周辺(箱根町)を出発。本市の大山を經由し小田原市から相模湾沿岸の市町を走り抜け、セーリング競技会場の江の島を経て辻堂神台公園(藤沢市)に入ります。2日目は三崎港(三浦市)から鶴岡八幡宮(鎌倉市)、厚木市などを通過し、橋本公園(相模原市)に至ります。3日目は等々力陸上競技場(川崎市)をスタートし、サッカー会場の横浜国際総合競技場(日産スタジアム)や野球・ソフトボール会場の横浜スタジアムの周辺を巡り、赤レンガ倉庫(横浜市)に到着します。



57年前のランナーが後輩にエール

初のオリンピック開催に向けて日本中が歓喜に沸いていた1964(昭和39)年10月7日、伊勢原町の代表として二宮町から大磯町までの1.5キロメートルを駆け抜けた19歳の若きランナーがいました。

76歳になった今、当時の思い出や今回の聖火リレーへの気持ちをお聞きしました。

あの瞬間は、一生忘れられない大切な思い出

黒田 義夫さん(子易)

若さみなぎる青年時代

子どものときから体を動かすことが得意で、中学・高校では卓球部に所属していました。

高校卒業後、伊勢原町役場に就職すると、若い人が少ない職場の中で「20歳未満の職員」という条件に合致したことから声がかかり、ランナーに選出されました。

トーチの重さに感じるランナーとしての重責

「走っている最中に聖火が消えることはない」といわれていましたが、前のランナーが見えた時、自分のところで火を絶やしやいけないとの思いがわき上がり、大きな責任を感じました。聖火を受けたトーチを掲げると、炎の熱さとトーチの重さで体全体が紅潮するような気分になり、その思いはさらに強くなりました。ランナーは一人ではなく、副走者や伊勢原町内の中学生で構成された30人ほどの随走者たちとともに走ります。白バイに先導され、ゆっくりとしたペースで緊張しながら走り始めると、沿道で旗を振りながら応援している幼稚園児の声が聞こえました。これが励みになり、いつしか不安も吹き飛び、気持ちよく完走できました。

暗くなりがちな世の中を照らす光になってほしい

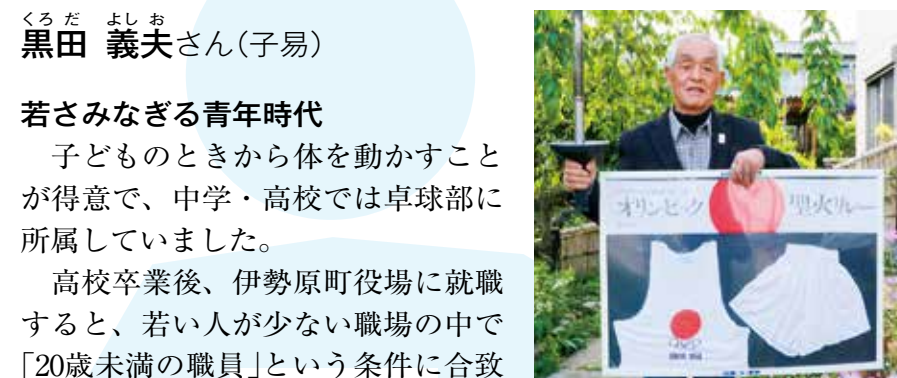
今回のオリンピックを当時と比べてみると、似ている点があります。前は戦後復興を目指してきた日本にとって立ち直った姿を世界に伝えるという意味がありました。それに対し、今回は震災復興に加え、新型コロナウイルスで落ち込む世界中の人々の心を鼓舞し、新しい時代を目指していこうというメッセージがあると思います。

聖火ランナーとして走ったことは、その後の人生において、すごく良い経験になりました。新しい聖火ランナーさんにも楽しみながら聖火をつないでほしいですね。

トーチで比較、1964年と2021年

1964年の東京オリンピックでのトーチは、全長630ミリメートル、重量1012グラム。点火しやすい・風雨に強いことなどの条件を前提に作製されました。原爆が投下された日に広島県三次市で生まれた坂井義則さん(当時19歳)が最終走者として聖火台に点火。平和へのメッセージになりました。

今回の東京2020オリンピックで使われるトーチは、全長710ミリメートル、重量1200グラム。東日本大震災の被災地で仮設住宅に用いられたアルミを再利用したものです。平和のシンボルとしてトーチに姿を変え、復興に向けて進む被災地の姿を世界に伝えます。



当時の聖火トーチとランニングシャツを持つ黒田さん



日の丸が描かれた白いランニングシャツ姿で走る黒田さん(国道1号)

皆さんの思いをのせて走ります

「実行委員会から連絡があった時は思わず叫んでしまいました」。そう語るのは市内在住で、お母さんたちを中心に活動する音楽家グループ「Piccolini」の代表であり、自身も2児の母親である高橋さん。成瀬小・成瀬中学校の卒業生でもある彼女に、意気込みを語っていただきました。

頑張るお母さんを代表して 平和の光を次世代につなぎたい

高橋 優花さん(41歳・高森)

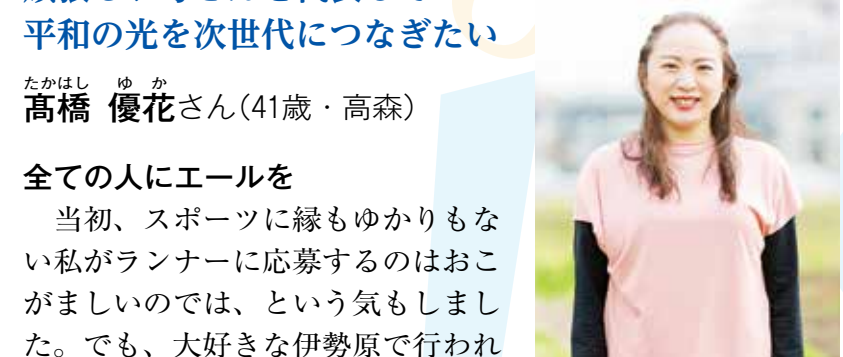
全ての人にエールを

当初、スポーツに縁もゆかりもない私がランナーに応募するのはおこがましいのでは、という気もしました。でも、大好きな伊勢原で行われる聖火リレー。せっかくの機会なので後悔はしたくないと思い、最終日の夜に応募フォームを入力したんです。思ったより項目が多く、送信できたのは締め切りの5分前でした。選ばれた瞬間は喜びと同時に、市民の皆さんを代表するんだという責任感が生まれました。

幼いころから音楽が大好きで、成瀬中学校のコーラス部でNHKのコンクールに3年連続で出場したことは今でも良い思い出です。音楽大学の声楽科に進み、その後は教師として10年間勤務しました。第1子を妊娠した際、「普段なかなかコンサートに出かけられない子育て中のママのためにコンサートができないか」と依頼を受けたのをきっかけに、当時同じく妊娠中だった大学の先輩で、現在の副代表でもある市内在住の遊馬俊恵さんと「Piccolini」を設立し、平成25年から活動しています。市内外でコンサートを行っているほか、YouTubeやFacebookで動画などの配信も行っています。

音楽で培った表現力を生かして

音楽では主に声や音でメッセージを伝えますが、リレーでは姿や表情で平和への祈りや伊勢原の良さを感じ取ってもらえればいいですね。ルートによっては著名人も走りますが、どこにでもいる普通のお母さんが必死に大山を下る姿を見ていただき、少しでも多くの人々、特に次世代を担う子どもたちを勇気づけられればいいですね。



Piccoliniで活動する高橋さん(写真中央)

聖火のトリビア紹介します

古代ギリシャでは聖なる火を一年中たいていた

神殿や市役所などに火をともしておく炉が設けられ、絶えずたかかっていた。火にはヘスティアという女神が宿っており、ともされている限りその都市は平和と幸福が約束されると信じられていました。

聖火リレーの起源

古代ギリシャでは、人口の増加により周辺地域に植民都市が作られ拡大していきました。新しい植民都市は、母市の聖なる火を移送して市庁舎の炉に採火しました。それにより、両市がつながると考えられていたからです。なるべく速く火を運ぶことが重要だったため、リレー方式で行われました。

近代オリンピックの聖火リレーの始まり

考案したのはカール・ディームという1936年のベルリン大会の事務総長です。①古代との関連を強める②各国を通過することで青少年の教育にもつながる③見た目が美しく芸術的であるという理由から始まりました。

私たちが大山を走ります

高橋さん以外にも3人のランナーが聖火をつなぎます。今までの活動や本番への意気込みなどをお聞きしました。ぜひ、皆さんで応援しましょう。()内は6月1日現在の年齢とゆかりの自治体

- 質問項目
- ①ランナーに応募したきっかけ
 - ②ランナーに決まった時の気持ち
 - ③聖火リレーへの意気込み

幼い時に見たリレーの感動を再び

中西 英敏さん(62歳・平塚市)

①1983(昭和58)年に柔道世界選手権71kg級で優勝、翌年にはロサンゼルス五輪に出場しました。その経験を生かし、母校である東海大学体育学部の教員として、多くの学生たち(五輪メダリストなど)を指導してきました。柔道を始める前、6歳の時に見た聖火リレーの感動が忘れられず、今回はその一翼を担いたいと思いました。②一緒に応募していた家族の分も頑張らなきゃいけないと感じましたね。今後の指導者人生にも生かされる経験ができると思いました。③気負わず自然体で走りたいです。与えられた役目を果たします。



障がいのある人とも経験を共有したい

野島 良実さん(58歳・開成町)

①小田原録音奉仕会で録音雑誌を制作し、読者である視覚障がいのある人に提供する活動をしています。1998(平成10)年のかながわ・ゆめ国体で炬火リレーに参加し、感動を味わったので、今度は聖火ランナーとして走った体験を記事にすることで、読者と体験を共有したいと思いました。②倍率が高いと聞いていたので、電話が来たときはとても驚きました。③日本遺産の地で走れるのは光栄です。ルートが決まり、すぐに大山へ安全祈願に行きました。早朝ウォーキングや筋肉トレーニングを続け、雨天でも転ばないように準備しています。



成長した自分を実感、五輪を盛り上げたい

石川 小百合さん(49歳・山北町)

◇ご本人の希望により写真は不掲載

①わが子が小・中学生だったころはPTAや子ども会活動の役員をしたほか、学校行事にも積極的に参加しました。2019(平成31)年からは、地区の健康普及員をしています。幅広い年齢層の人々と交流を持つことができたのが自信になり、何らかの形で五輪を盛り上げたいと思ったからです。②こんな幸運に恵まれたのは奇跡ですね。宝くじに当たった感覚です。③火を消さない、途切れさせないことが1番です。私が楽しめればきっと周りの誰かも明るい気持ちになってくれると思うので、マイペースにこうと思います。

当日の会場周辺における注意点

感染症対策のため、以下の点に注意してください※過度な密集が生じた場合はリレーを中断する可能性があります
◇体調不良の場合は観覧しない◇マスクを着用する◇大声を出さない◇隣の人と2メートル以上距離をとる◇拍手やグッズで応援する
交通規制区域や使用できない施設

当日は清水屋みやげ店(大山295)から大山阿夫利神社下社までの区域が交通規制となり、使用できない施設があります。ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。
当日使用できない施設と時間帯
ケーブルカー 午前9時ごろ～午後1時ごろ
こま参道 午前9時ごろ～11時30分ごろ
登山道 午前9時ごろ～11時30分ごろ

応援はインターネットのライブ中継で

リレーの様子がNHKのインターネットサイト「東京2020オリンピック聖火リレー ライブストリーミング」で放送されます。密集を避けるため、ライブ中継をご利用ください◇右のQRコードからもご覧いただけます



専用サイト